

あぶた福祉会

第23回

地域生活者の

状況について

あぶた福祉会では、平成元年より地域支援に取り組み、

現在では10力所のグループホーム（ケアホーム）に52名の方が町内で生活をしております。

当初は、経済力や自立度の高い人が中心の取組みであったため、比較的支援の度合いも低く、

自分の力で地域生活を支えるための取り組みも多く持つことが出来ました。しかし、年数を重ねると共に重度化、高齢化が進んでいる傾向にあり、合わせて

福祉サービスの法的な改正（障害者自立支援法）に伴う利用者負担も多くなり、経済的に困窮

している人も増えてきています。

あぶた福祉会では、地域サポートセンター「ふれん」を地域支援の拠点とし、

今後の利用者負担の軽減や高齢化に伴う精神的、身体的配慮を具体的にどのよう

に進めていくべきかを急務の課題として、支援内容の強化を図っております。

その手始めとして平成6年に開設しました24時間型ケアホーム「ひまわり荘」が、この4月、

法人所有として取得した中古物件の住居へ引越しました。

「ひまわり荘」は6名の方が入居しており、重度化や高齢化が顕著であるため、世話人、生活支援員を常時配置し、本人の状態の変化などに常に目配り気配りをして、より良い生活環境の改善に努めております。高砂町かつこう台地区では始めての

ケアホームです。近隣住民の皆様には何かとお世話になります

が、早く溶け込めるようになりたいと思っていますので、未長

く温かい目で見守って頂ければ幸いです。

ハードな面でも重度化、高齢化に伴い、防災（防火）安全対策にも力を入れ、通報装置や報知器の設置の他、民間整備会社の火災監視システムなども導入し、より万全の体制を図り、利用者の方への啓蒙も常に行っております。



新しい「ひまわり荘」

今後利用者の方が地域で安心して生活が出来る環境改善と支援体制の充実に努めていきますので、ご理解のほどよろしく

お願い申し上げます。

地域サポートセンター 小野寺 英昭

洞爺湖ビジターセンター主催の「金比羅山春色さがし&火口めぐり」が4月24日開かれ、金比羅火口周辺を歩きながら、ネイチャーゲーム「自然の色あわせ」を行い、参加者それぞれが春の訪れを実感しました。

同ゲームは、景色や草花など、歩きながら見つけた色を、カードにマジックで印をつけていくというゲームで、1時間30分ほどかけて、火口周辺を歩き、自然観察を行いました。

ビジターセンターに戻ってからは、同ゲームで見つけた色と同色の折り紙をちぎり、全員でポストカードをつくり、有珠山の自然の回復力を体感しました。

有珠山の春を観察 自然の回復力を体感

洞爺湖ビジターセンター主催の「金比羅山春色さがし&火口めぐり」が4月24日開かれ、金比羅火口周辺を歩きながら、ネイチャーゲーム「自然の色あわせ」を行い、参加者それぞれが春の訪れを実感しました。

同ゲームは、景色や草花など、歩きながら見つけた色を、カードにマジックで印をつけていくというゲームで、1時間30分ほどかけて、火口周辺を歩き、自然観察を行いました。

ビジターセンターに戻ってからは、同ゲームで見つけた色と同色の折り紙をちぎり、全員でポストカードをつくり、有珠山の自然の回復力を体感しました。

完成したポストカードを手に記念撮影する参加者ら



月浦自然森林公園内に休憩所整備

月浦自然森林公園内に、地元住民や散策者らが休憩など

できる施設「お屋敷跡休憩所」が完成し、4月28日からオープンしました。

明治25年に月浦に農場を開いた大洲藩の第13代藩主加藤泰秋子爵別邸の跡地に建設。

道産材のトドマツを使用した約45平方メートルの木造平屋建ての和風づくりで、8畳の和室とトイレがついています。

利用期間は10月末まで、平日は午前8時から正午まで利用可能。土日祝日は、予約が必要と



加藤子爵邸後に建てられた「お屋敷跡休憩所」

なります（予約先 グリーンステイ洞爺湖 ☎ 75 3377）。